

第20回 向日市上下水道事業懇談会 議事録

日 時 : 平成24年2月2日(木) 午前10時から正午まで

場 所 : 向日市役所 大会議室(3階)

出席者 :

(委員) 吉川会長、村山副会長、五十棲委員、上羽委員、楠本委員、佐藤委員、
建山委員、森田委員

(事務局) 市長、田村上下水道部長、高田上下水道部次長、柴崎営業課長、
松本浄水場長、山田下水道課長、川見上水道課主幹、
長谷川下水道課主幹、南口営業課係長、石田浄水場係長、
鹿島営業課係長、須藤営業課総括主任、阪根営業課主査

傍 聴 : 0 名

1 あいさつ

(市長あいさつ)

2 委嘱状交付

(市長から各委員へ委嘱状の交付)

3 会長及び副会長の選出

(会長に吉川委員、副会長に村山委員を選出)

4 議事

【水道事業について】

委員

平成19年度から黒字に転じた理由は何か。

事務局

物集女西浄水場と上植野浄水場を一元化したことにより、稼働率が上がり自己水源のコストが下がったことが挙げられます。また、高金利の起債を低利のものに借り換えたこと、府営水道の値下げ、水道事業管理者の廃止や職員の削減等の努力により、黒字に転換しました。しかし、職員の削減により、危機管理や技術継承という課題が残っています。収支は、今年度は2000万円、来年度は1000万円の黒字を見込んでいます。

委員

一部事務組合のような共同で経営することは水道事業ではすぐわないか。

事務局

広域化は大切です。宇治系、木津系、乙訓系の京都府営水道の料金がバラバラなので、水道料金の平準化を京都府に要望しています。3水系とそれぞれの

自己水をまとめて広域化をする手段が必要と考えています。

委員 市町村単位で水道事業を運営しているが、一つの資源と考えるとそれぞれで運用したいと思う。しかし、行政費用を考えるとどうなのか。

事務局 2市1町では、浄水場を減らしてきましたが、危機管理の点から自己水と府営水の2つの水源を確保することは大切です。2市1町で広域化を進めようとするより、府営水受水市町全体で広域化を進める方が効果が高いと思います。

委員 昨年に比べて、今年と来年の黒字が減るのはなぜか。

事務局 昨年の予算は、3000万円の黒字を見込んでいましたが、支出の残が多く、6800万円の黒字となり、今年はほぼ予算どおりです。平成24年度は浄水場の耐震診断に3000万円の費用が必要となるため、黒字額が減っています。最小限度の費用で執行し、できるだけ黒字を増やすように心掛けており、予算を使い切ることはありません。

委員 府営水道を導入した2000年(平成12年)頃から赤字になり、平成19年度に黒字に転換した概略を説明してください。

事務局 平成11年度までは黒字で、府営水道を導入した平成12年度から赤字になりました。その後も単年度赤字が続き、累積赤字は平成18年度8億697万円がピークでした。8年ぶりに平成19年度から単年度黒字に転換し、平成22年度まで連続4年、単年度黒字ですが、6億3000万円の累積赤字となっています。また、給水量がピーク時に比べ、約100万トン減ったのに伴い、給水収益が減ったのも赤字の原因と考えられます。

委員 地下水の時は黒字で、府営水道導入で赤字になり、経営努力で現在、黒字に転換したというイメージで良いか。

事務局 はい、そうです。

委員 1つ目に、9ページにある1人1日平均給水量で、かつて400リットルだったのが、平成18年度から平成21年度まであまり増減がなく、平成22年度に313リットルに増えた要因は何か。2つ目に、管路160kmのうち基幹管路の耐震化を急ぐとのことであるが、建物の耐震化はどうか。3つ目に、8ページの向日市水道ビジョンの目標にある「環境にやさしい水供給」とは何か。

事務局 耐震化について、今年度、上植野浄水場配水塔のコンクリート劣化調査をします。物集女西浄水場、配水池については、来年度耐震診断をする予定です。

1人1日平均給水量については、向日市水道ビジョンの6ページのとおり、平成2年度をピークに減少しており、全国的にも同じ傾向にあります。資料の9ページにある有収率も年度により変化しております。

環境にやさしい水供給については、向日市水道ビジョン47ページのとおり、平成13年度に環境マネジメントの国際規格であるISO14001を認証取得し、環境に配慮した浄水場運営を行ってきました。また、漏水調査を実施して漏水防止に努めていますので、高い有効率となるように省資源・省エネルギーを図っています。物集女西浄水場では、石油燃料に頼らない装置導入の検討や環境にやさしい浄化設備の研究を産官学で進める取組をしています。

委員
事務局

環境にやさしい浄化設備の研究とは、どういうことか。

浄水処理は次亜塩やPAC等化学薬品を注入するケミカル処理が中心で、酸化させるために多量の塩素を入れたり、汚泥処理をするために、水酸化アルミニウムを入れています。今、研究しているのは、そういった薬品を入れない鉄バクテリアを用いたバイオ処理です。残念ながら、実現には至っておりません。

委員

1点目は、井戸について、将来の見通しも含めて、水質・水量とも安定しているか。

2点目は、公営企業であるため独立採算制が基本にあると思うが、上下水道は、社会インフラとして非常に重要な設備なので、更新や耐震化の場合、枠を外して議論をする必要があると思うが、その可能性はあるか。

事務局

下水道については、一般会計からの繰り入れをしており、赤字になるのであれば、一般会計から繰り入れるしかありません。将来的な見通しを持って更新計画、財政計画をたてていきたいと思っています。

井戸の管理については、水量・水位、水質の問題があります。現在使用している井戸は12本程度で、12,000～13,000トンの水をくみあげています。公称の浄水処理能力は21,000トンです。水質は、鉄、マンガンが多いのでケミカル処理をしています。また、アンモニアが多いため、多くの次亜塩素を注入しています。

委員
事務局

地下水は安定的に供給できる水量を確保しているということか。

昭和63年まで10年で水位が10m下がるという悪い状況にありました。地下水対策審議会ができ、京都大学の寺田先生にシミュレーションをしていたところ、安定揚水量は15,500トンでした。府営水道の導入後は、企業と合わせて15,500トン以下であり、地下水位も安定しています。

【下水道事業について】

委員
事務局

経営指標で経費回収率が100%でないのは、料金設定に問題があるのか。

料金設定ではありません。汚水事業では、設備投資をするために、受益者負担の考えから市民に負担を求めますが、国庫補助や起債で対応していま

す。足りない分は、一般会計から繰り入れをしていますが、現状ではやむを得ないと考えます。

委員 下水道の場合、耐震性は問題が少ないとのことであるが、全国的に地震の際の液状化やマンホールを浮き上がりが問題になっている。向日市の状況は。

事務局 平成17年度に耐震の診断を行いました。その時には液状化は大きく問題になっていませんでした。2年前から道路の拡幅事業を行っており、これに併せて汚水管渠を入れています。この管渠の設計において、液状化しないことを確認しています。

委員 水洗化していないところが2.2%あるが、全国的には多いのか。戸別訪問をして汗を流しているとのことだが、100%にするために特別なことは考えているのか。

事務局 現在は98%になっており、500件近くが接続をされていません。そのままにしておくと、無断工事をすることもあり、また浄化槽を使っていると不自由を感じないので、職員が訪問をして指導をしています。時間はかかりますが、地道にするしかありません。

事務局 水洗化率について、平成18年度の資料では、本市は94.7%、全国平均92%となっており、本市の水洗化率は高いと言えます。

委員 全国平均よりも高い水準であることがわかった。独居老人や経済的に困っている方が水洗化できないので、福祉的な施策が必要であると思っていたが、そうでもない。むしろ無断工事については毅然とした態度で取り組むべき。

事務局 経済的に水洗化できないところもあります。職員が訪問すると、事情がわかるので、なぜ水洗化できないかをデータに残しています。